

様式2

平成27年度自己評価表

鳥取県立岩美高等学校

中長期 目標 (学校 ビジョ ン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。		今年度の 重点目標	1. キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2. 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3. 生徒が主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身に付けさせる。 4. 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。				
年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月			総合
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	評価
1 進路 指導 の 充 実	○キャリア教育の充実	○自己肯定感が低く自分に自信が持てない生徒が多い。自己の進路について積極的に関わろうとする意欲に乏しい。	○自己を理解し、自らの将来について主体的に考える力を身につけている。	○「ジパーク2」や「総合的な学習の時間」を活用し、基礎的汎用的能力の育成を目安としたキャリア教育に取り組む。	計画に従ってジパーク学習に取り組んだが、自らの将来を主体的に考えるようにするための具体的方策の検討が不十分であり、アンケートの結果としてもよい結果が見られない。	C	地域に出かけて地域と対話し、活動する機会を積極的に持つ。	B
	○進路実現のための系統的な指導方法の充実	○進路実現100%を裏打する安定した指導方法が確立・定着しつつある。	○進路実現に向けて適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている 進路実現100%、2年次末までの進路希望未決定者10%以下。	○進路面談や進路セミナーなどの進路学習を各学年団との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へと深化させる。 ○個別面談の充実と1クラス複数体制の確立。	本校の進路指導について充実している、必要な情報が得られていると答える保護者は8割を超え、自分の進路決定に役立っていると答える生徒も8割を超えている。3年間を見通した系統的指導の成果と思われる。	B	効果のある取り組みは継続した上で、生徒の進路希望に柔軟に対応し、新しい取り組みも今後検討していく。	
2 生徒 指導 の 充 実	○基本的生活習慣とマナーの定着	○頭髪服装再検査者数は減少しているが、0にはならない。再検査者数は下学年で多い傾向がある。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均3人以内にする。	○全校朝会や頭髪服装検査の実施による校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。	挨拶その他校則やマナーを守ることができているについて「やや思う」生徒は7～8割だが「そう思う」生徒は3割で、規範意識を持っている生徒が3割と考えられる。再検査者数が1クラス3人以内が達成できていないことにも通じると考えられる。	B	規範意識を持った生活が行われるよう、引き続き教員が高い意識を持って指導にあたる。	B
	○生徒会活動の充実	○部活動加入率は全校で99.1%で、ほぼ達成できている。	○部活動全員加入を継続し部活動をととして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○部活動全員加入を推進する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。	○部活動は全員加入を達成している。アンケートにより「部活動に一生懸命取り組んでいる」「部活動をととして人間的に成長している」と感じる生徒、保護者、教員が8割を超え、部活指導による生徒指導には一定の効果が見られる。	B	部活動が主体となって近隣および登下校時に使う道路の清掃、雪かき等、活動の幅を広げていく。	
	○豊かな人間関係づくりの推進。	○携帯電話等による小さなトラブルが起きている。友人とのメールのやり取りで不安感等を感じる生徒も多い。	○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をすることの重要性を知っている。 ○携帯電話などの使用マナーが身についている。	○生徒会主催のケータイ・インターネットマナー研修会等の取組を充実させる。	携帯電話等に係るトラブルにはすぐに対応し、重大な問題にはなっていない。アンケートでは「マナーを守り直接会話を大切にしている」という生徒保護者は約8割である。使用時間は1時間までが約1割、3時間以上が3割であり、継続した取組が必要である。	B	携帯電話等の使用実態をよく検証し、使用マナーの取組みを引き続き充実させていく。	
3 学 習 指導 の 充 実	○学習指導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の工夫がなされているが、苦手意識がぬぐいきれず学ぶ意欲に乏しい生徒が多い。	○授業をととして生徒自身が成長していることを実感し、学ぶ喜びを感じている。	○生徒が主体的・協働的に学ぶ授業の実践を促進する。 ○公開授業や研究授業月間を活用して、学習指導のあり方についての情報を共有する。	学習活動を工夫している教員は増えており、アクティブラーニングの取組みが広がっている。後期の公開授業月間では1人1回公開授業を目指したが約4割の実施であった。先進校の公開授業に参加し、職員会議で共有できた。7割を超える生徒が学ぶことが楽しいと感じる授業があると答えている。	B	先進校の公開授業参加と職員会議での共有は継続し、本校で目指すアクティブラーニングについて議論を深める。	C
	○基礎学力の向上	○ワッツ検定初級合格率は1年で4教科中3教科が50%未満である。 ○家庭学習時間は平日30分未満が58%であり家庭学習は習慣になっているとは言えない。	○ワッツ検定全教科の初級合格率を1年末で40%、2年末で60%に近づけ、3年末で100%を達成する。 ○1日1時間以上の家庭学習が習慣化されている。	○リスト学習・ワッツ検定の進捗状況を検証し、活用を促進する。 ○学年団と教科担当との連携を密にする。	初級は1,2年とも昨年より高い割合で合格しているものの目標とする合格率には至らない。3年は初級100%合格を達成している。 家庭学習時間は平日の1日平均で34.7分で、1学期の調査より減少している。クラスによるばらつきも大きい。1日1時間家庭学習の習慣化は達成されていない。	C	ワッツ検定の早期合格と家庭学習の習慣化に向けての具体的取組を検討する。	
4 開 つ か れ た 学 校 実 施	○地域と連携した学校づくりの推進	○「ジパーク1」での学習をととして、岩美町の関係者や専門家の協力を得た学習が展開できた。生徒の側からの働きかけや発信は不十分である。	○文部科学省指定の研究活動をととして、地域と連携した学習活動を開発し、地域に密着した学校としての学習カリキュラムを編成する。	○「ジパーク2」での活動において、地域連携の方策を研究する。 ○ジオ研究推進委員会や研究開発運営指導委員会をととして、学校全体および専門家や岩美町の方からの意見を活用する。	「ジパーク2」での研究テーマが決定し、グループ別の活動がスタートした。地域と連携した活動が少しずつ進められているものの手探りの状況であり、時間不足で進度は遅れ気味である。学習カリキュラムの編成までには至っていない。	C	授業や部活等あらゆる面での地域連携を深め、地域とのつながりを強固にしていくなかで「ジパーク2」「ジパーク3」のカリキュラムに組み入れていく。	C

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]